

# 提案

台東区地域日本語教育コーディネーター、多文化キッズコーディネーター、社会教育委員の立場から、今後の区立図書館のあり方について、いくつか提案を申し上げます。

## キーワード： 利用者の主体性

図書館が一方的なサービスを提供する場ではなく、利用者一人ひとりが自らの興味や文化、そして学習意欲を形にする「創造の場」となることを目指す。

---

### ① 幼少期から思春期まで、切れ目なく図書館に関わるための仕掛け

図書館を単なる「利用する場所」から、利用者自身が「創り、関わる場所」にすることで、各年代の図書館利用を継続的に促す。

#### 提案：

- **多言語・多文化で広がる図書館の入口**

日本語だけでなく、様々な国の言葉で絵本の読み聞かせを定期的に行う。外国にルーツを持つ地域住民と外国に関心のある日本人住民が一緒に外国語の絵本を紹介し、読み聞かせを実施。台東区に暮らすあらゆる親子が楽しく異文化に触れることができ、多文化共生への理解を深めるきっかけに。読み聞かせの後には、絵本に出てきた簡単な単語を教えたり、その絵本の背景にある文化について話したりも。

- **子どもたちが図書館の「主役」に**

小学生向けには、本の返却や並べ替え、ポップ作りなどを体験する「キッズ・ライブラリアン」プログラムを実施。子ども自身が図書館の仕事を体験することで、図書館をより身近に感じ、愛着を育む。

- **中高生が「創る」コミュニティ**

図書館の広報やイベント企画を担う「ユース・アンバサダー」を募り、SNSでの情報発信や、同世代に向けたイベントを企画・運営してもらう。主体的に関わってもらうことにより、中高生にとって図書館がプラットフォームとなるのでは。

---

---

## ② 親子や子どもが「居場所」を創る「おはなしのへや」

「おはなしのへや」を、多世代・多文化の交流が生まれるコミュニティースペースへ。

**提案：**

- 「居場所」を自分たちでデザイン

親子でオリジナルの絵本を制作するワークショップなどを開催。完成した絵本を一定期間展示し、参加者が「居場所」の一部を創り出す喜びを感じる仕掛けを。

また、図書館が提供する情報だけでなく、子育てに関する情報（地域のイベント、相談窓口など）を多言語で掲示し、保護者同士の情報交換を促すことで、図書館が地域の子育ての支援拠点の一つに。

- 多言語・多文化絵本コーナーの工夫

「多言語・多文化絵本コーナー」を、単に外国語の絵本を置くだけでなく、台東区ならではの多文化共生を象徴する体験型展示スペースへ。

**(案) 「絵本で旅する世界一周」展示**：毎月、特定の国や地域をテーマに特集展

**絵本展示：**その国の言語の絵本はもちろん、日本訳された絵本も一緒に展示。

**文化紹介：**その国の挨拶、簡単な言葉、食文化、民族衣装、お祭りなどを紹介するパネルや、現地の写真などを掲示。

**体験コーナー：**簡単な伝統工芸品を体験できるミニワークショップを開催。

五感で多文化に触れる機会を提供。

---

### ③ (仮称)アクティブラーニングルームの能動的な運用

アクティブラーニングルームは、10代が自ら学びを深め、社会とつながり、未来を創造していくための「学びのラボ」にしてほしい。

提案案：

- ファシリテーターによる能動的学びの支援

図書館職員がファシリテーターとして、資料やデータベースの活用方法をサポート。さらに、学校や地域の専門家をファシリテーターとして招き、中高生が調べたテーマについて発表する「テーマ別研究発表会」を定期的に開催することで、学習成果をアウトプットする場を設ける。

- クリエイティブ・ツールの導入：

グループ学習の成果を表現するためのツール（例：動画編集ソフト、デザインソフト、3Dプリンター、VRゴーグルなど）を導入。これにより、レポート作成だけでなく、プレゼンテーション資料や動画コンテンツ、模型など、多様な方法で学習成果を発表できるように。大学生や地域の専門家がメンターとしてサポート。

- 「台東区の地域課題を解決する」プロジェクト

中高生がグループで、台東区が抱える具体的な課題（例：観光客向けの多言語案内板の改善、空き店舗の活用法、防災意識の向上など）をテーマに、解決策を提案・実行するプロジェクトを企画。図書館職員や地域の専門家がメンターとしてサポート。プロジェクトの成果は、図書館での展示会やオンラインでの発表会だけでなく、区役所の担当者や地域住民に向けてプレゼンテーションする機会を設ける。これにより、彼らの学びが社会に還元される体験の場を作る。